

# 国内におけるIoT人材育成ニーズの背景

【資料8-2】

- Society5.0の実現に向け、ドライビングフォースとして、IoTの導入・活用の重要性が高まっている。
- 日本における幅広い層へのIoT人材育成はまだ十分ではない。セキュリティ面の脅威についての認識共有や対策も遅れている。
- 大都市圏への一極集中の産業構造や、地域に中小企業が多い等、地域において特にIoT人材が不足し、育成が望まれる。

## デジタル変革の進展におけるドライビングフォース

ビッグデータ分析による処理能力向上

**IoTによるモノの連結・ネットワーク化**

人工知能 (AI) の非連続的進化

## IoT導入・活用の重要性の高まり

- モビリティ（自動走行）、医療・健康、農業、観光、製造現場、流通・物流・インフラなどの多岐にわたる分野での活用が期待される。
- 世界では、AI・IoTの普及が進み、IoTデバイス数は2017年には約270億、2020年には約400億の予測。
- これまで接続されていなかった自動車やカメラなどの機器が、WiFiや携帯電話網などを介してインターネットに接続されることにより、新たな脅威が発生し、それに対するセキュリティ対策が必要となった。

## 国内の社会課題

- 大都市圏へのIT産業の偏在
- 人口減少・少子高齢化による構造的な人手不足

**地域においてIoTの導入・活用を推進できる人材の育成が必要**

出典) 総務省「情報通信白書」(令和元年)及び  
ICTによるイノベーションと新たなエコノミー形成に関する調査研究」(平成30年)